

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23310186

研究課題名(和文) 近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究

研究課題名(英文) Studies on the Composite Dynamics of Modern and Current Sufism and Saint Veneration in Islam

研究代表者

赤堀 雅幸 (AKAHORI, Masayuki)

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：20270530

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：スーフィズムや聖者信仰は、厳格な一神教と思われがちなイスラームの包括的な性質を捉えるのに格好の主題である。本研究は、思想研究、人類学、歴史学の各分野の研究を総合し、スーフィズム・聖者信仰複合と名付けるところの総体を捉える理論的視座の確立を目的とする。とくに、政治的なイスラーム主義に目を奪われがちな近現代イスラーム理解を相対化するためにも、本研究では19世紀以降のスーフィズムと聖者信仰の展開に力点を置いた。単独および共同での現地調査に加え、研究会等を積み重ね、学術誌上に特集を4回組み、国際会議での部会発表を経て、スーフィズムの三極構造論、スーフィズム・聖者信仰複合論のさらなる精緻化を達成した。

研究成果の概要(英文)：Although Islam is generally viewed as a strictly monotheistic religion, yet people's beliefs and practices with reference to Sufism and saint veneration often tend to modify such a widespread perception. Our research project explored interdisciplinary studies among scholars of Islamic thought, history, and anthropology, focusing in particular on the dynamics of these issues in modern and current times. We conducted individual and joint fieldwork, held seminars and international workshops, edited four special features in academic journals, and organized a session at an international conference. We were effective in refining the theory of both the three-axis framework of Sufism as well as that on the dynamic combination of Sufism and saint veneration in Islam, and our overall accomplishments will be displayed in the near future in two anthologies, one in English and the other in Japanese.

研究分野：人類学、イスラーム地域研究

キーワード：国際研究者交流、フランス 東洋史 文化人類学 イスラーム スーフィズム 聖者 宗教 預言者

1. 研究開始当初の背景

時代を超え地域を超えてイスラーム世界に見られるスーフィズムや聖者信仰については、思想研究(神秘主義研究)、人類学(聖者信仰研究)、歴史学(教団研究)において各個に研究が取り組まれてきたが、各分野および各地域の研究が、相互に参照しあって総合的な枠組みの中で展開されているとはいえない。

平成9年度に本研究の代表者である赤堀と分担者である東長が開始した共同研究は、上述の認識の共有から出発し、近年の代表的著作の読書会を手始めに、異なる分野の専門家がたがいの研究成果に知悉し、忌憚なく議論を交わして、狭い範囲の専門を超えた批評に耐えられる個別研究を練り上げつつ、共通の理論的視座を構築する努力を払って継続されてきた。

その間、東長が提唱するスーフィズム三極構造論や、赤堀によるスーフィズム・聖者信仰複合論などを生み出し、共同研究とその成果は、国内外の国際会議などを通して知られるようになった。赤堀雅幸・東長靖・堀川徹(編)『イスラームの神秘主義と聖者信仰』(東京大学出版会、2005年)は、最初の大きな成果であり、この分野の論集としては日本で最初のものである。

しかしながらその後、研究が進展するにつれ、近現代に関する研究が世界的に見ても乏しく、とりわけ社会科学の視点からなされる研究が脆弱であることが痛感されるようになった。近現代のスーフィズムについては、F. Rahmanによるネオ・スーフィズム論を嚆矢として探求が試みられたが、1980年代以降はスーフィズム批判の歴史への注目や、現代のスーフィズムを新宗教の枠組みで分析するなどに終わり、包括的な取り組みはなおざりにされている。本研究は、イスラームと近代の邂逅の時点からイスラームの近代を通観する視点を持って研究に取り組むべきであるとの考量に基づいて構想されたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近現代のスーフィズム・聖者信仰複合について、思想研究、歴史学、人類学の専門家による現地調査を推進すると共に、それら専門家の議論を通して相互理解を深めることにある。これにより、19世紀以降、また、1970年代以降のグローバル化の時代以降に、大きく変貌しつつあるスーフィズム、聖者信仰、その周辺にある信仰と実践の諸形態について、実証的事例研究の数を増し、同時に、分野と地域を超えて通用する理論的視座の確立を目指した。さらには、社会科学の視点からの研究に乏しかった従来のスーフィズム、聖者信仰研究を補強し、また、政治的なイスラーム主義の研究に傾きがちな近現代イスラームに対する理解を相対化し、より総合化することも視野に入れて研究を展開した。

長期に展開する共同研究の新しい段階として、本研究は対象となる時代を、イスラーム世界とヨーロッパ近代が本格的に出会った19世紀以降、もしくはその前駆期と見なすことのできる18世紀までに限定した。その一方、地域的にはムスリム

が一定の存在感を持つ地域を広範に取り上げ、地域の個性を十分に認識しながらも研究参加者の間に超地域的な了解を醸成するよう心がけた。

研究の推進にあたっては、これまでの共同研究の積み重ねから、四つの切り口を設定し、出発点においては、それぞれの切り口について、下記を仮の論点として設定した。

スーフィズムへの近代合理主義の浸透、もしくは対抗と超克の試み

教育の浸透などに伴う聖者信仰の退潮、その一方で観光化などを伴う隆盛

タリーカの組織近代化、その一方でタリーカの伝統的機能を代替する新しい組織の普及
預言者一族崇敬に対する批判、その一方で社会的経済的政治的利用の促進

これらについて、研究期間終了時に、説得性があり、全体を覆うような説明を用意することを、本研究の到達点として設定した。併せて、サラフィー主義などスーフィズムとは異なる近現代イスラームの流れに関する近年の研究の成果に目配りすることも重要な課題とした。

3. 研究の方法

(1) 全体像

個別の事例研究の充実から始め、現地調査、共同現地調査の実施によって、不足している事例研究量を補いつつ、複数回の研究会、研究合宿を実施して、参加者の個別研究をたがいに批判しつつ高め合い、また、国内外の最新の研究成果に暁通し、それらを批判的に議論に組み込むこととした。その一方で、共同に利用できる学術資源として近現代スーフィズム・聖者信仰複合に関わる研究文献目録、研究動向報告の作成と公開を実施し、国内に所蔵のない文献の収集にも努めた。成果の発表としては、中間段階で学術誌に特集を組むなどした上で、最終年度に国際会議での部会発表、研究完了後の速やかな論集刊行に加え、概説書刊行を含む研究成果の社会還元に取り組んだ。

(2) 研究組織

研究組織は、専門分野、研究対象地域、所属機関等所在地を考慮して構成した。

まず研究代表者である赤堀は研究の全体を統括し、専門の人類学を生かして現地調査全般を監督するとともに、上智大学で実施する研究会、研究合宿、図書館の所蔵等に責任を持った。研究分担者である東長は、本研究で唯一の思想研究者であり、現地調査と社会科学の視点を重視した研究の全体に、異なる角度から検討を加えて、研究の進展を補正した。同時に、京都大学で実施する研究会等に責任を持った。

連携研究者は6名である。先行する共同研究で活躍し、すでにすぐれた業績を上げていると同時に、本研究の研究対象地域をバランスよく担当できる専門家として、現地調査経験豊富な人類学者2名の他、研究の趣旨をよく理解し、文献研究に加えて、これまでも現地調査を行っ

てきた実績のある歴史学者 4 名が参加した。

人類学者である 2 名、齋藤と外川はそれぞれマグリブと南アジアを担当地域とし、歴史学者 4 名のうち、新井は東南アジア(および環インド洋の広がり)、高橋はマッシュリク、三沢はトルコ系言語の通用地域(含中央アジア)、森本はペルシア語通用地域(含アフガニスタン等)を担当した。なお、これ以外に平成 20 年度より調査を実施している北米を赤堀が担当地域とし、欧州および中国については、研究協力者などの参加を促した。

これらの他、CNRS より T. Zarcone らスーフイズム研究班の協力を得ることとし、また京都大学、上智大学の大学院学生を中心に、若手研究者を研究協力者として積極的に取り込んだ。

(3) 現地調査

近現代に関する事例研究量を補う意味でも、本研究の趣旨に即した事例研究を行う意味でも、研究参加者の現地調査を奨励し数名を派遣した。その際には、個々の研究者が長期的な視野に立ってそれぞれの調査地で行っている調査と、本研究の趣旨とを事前に研究打ち合わせの中で摺り合わせ、あくまで共同研究の一環としての現地調査となるよう配慮した。

これとは別個に共同現地調査にも複数を派遣した。共同現地調査は特定の調査地にその地域の専門家とその地域を専門としない研究者を派遣して、共同で調査を実施するものである。この種の共同現地調査は、現地語能力の問題も含め、専門家でない研究者が学術的に十分な水準に達した調査を行うことがむずかしいという問題点があるが、他方では、研究者が専門地域における常識から解き放たれるのにきわめて効果的であった。

(4) 研究会・研究合宿

研究会は年間 1~3 回実施し、討論の時間を充分にとることを心がけた。若手研究者を育成するとともに、その意欲的な研究の成果を積極的に取り入れることも狙いのひとつとして、若手の研究協力者を募って発表の機会を与えることも配慮した。

また、これらとは別に、上智大学の保有する施設等を用い、主題を特定して、1泊2日による合宿形式の研究会を毎年度開催した。研究合宿は、若手研究者の意欲を高め、地域・時代・分野の異なる専門家の相互理解を推進し、また新たな研究の可能性を生み出す契機としてきわめて有効であった。研究合宿においては、現地調査報告の他、個別の研究発表、また、最新の研究書から適宜、検討に値する著作を選定し、読書研究会も実施した。

(5) 文献収集

国内に所蔵のない近現代スーフイズム・聖者信仰複合関連文献を収集し、上智大学アジア文化研究所図書室に所蔵した。

(6) 成果の発表

口頭発表については、国内外の学会他での発

表を行い、最終年度である平成 26 年度にアンカラで開催された WOCMES(中東研究世界大会)を最終成果の発表と設定した。

近現代のスーフイズム・聖者信仰複合については研究開始時点でまとまった文献目録もなく、各地域での研究動向についても、専門とする地域以外について簡便に知ることのできるような資料が存在しなかったため、これを順次作成することとした。また、口頭発表を着実に学術誌の特集などに組んで公開すると共に、最終成果を英文による論集と日本語による概説書として公刊することとした。

4. 研究成果

(1) 研究組織

研究組織は予定通りに確立され、研究期間終了後も継続して機能している。

(2) 現地調査

単独現地調査については、平成 23 年度に 4 名(トルコ、パキスタン、米国、インド、バングラデシュ、モロッコ)、平成 24 年度に 1 名(エジプト)、平成 26 年度に 2 名(英国、トルコ)に派遣した。

共同現地調査については、平成 23 年度に 3 名(インドネシア)、平成 24 年度に 3 名(イラン)、平成 25 年度に 3 名(ウズベキスタン)、平成 26 年度に 2 名(トルコ)を本研究予算により派遣した。

自己の研究費によって単独現地調査を実施したり、共同現地調査に加わったりした研究参加者もあり、全般に充実した調査を実施し、また共同調査手法の洗練もなされた。

これら 2 種の調査の実施により、個別事例研究の深化がなされ、調査データの共有、地域比較の視点の深化には顕著な前進があった。

(3) 研究会・研究合宿

研究会は、平成 23 年度に 3 回、平成 24 年度に 2 回、平成 25 年度に 1 回、平成 26 年度に 1 回を実施した他、毎年度 1 回、2 日間にわたる研究合宿を実施し、調査成果の共有、最新の研究動向の把握、研究参加者個々の研究を進展させるための議論、またスーフイズムおよび聖者信仰をめぐる理論について検討を行った。加えて、国際学会での発表の訓練を兼ねて、滞日中の外国人研究協力者をディスカッサントに据え、若手研究者の英語による発表を軸とする国際ワークショップを毎年度 2 回実施(平成 26 年度は 1 回)した。また、CNRS スーフイズム班との共催による国際ワークショップを、平成 24 年度に 1 回(京都)、平成 25 年度に 1 回(パリ)開催し、これを定期的実施して長期にわたる研究協力を実現する体制を整えた。

(4) 文献収集

文献収集については、相当数を収集し、近現代スーフイズムおよび聖者崇敬に関する研究に若手研究者が取り組むのに適した環境の整備を進めることができた。

(5) 成果の発表

成果を広く口頭で発表する機会としては、国内外複数の学会発表、招待講演等を行い、平成26年度にはWOCMES Ankara 2014において“The Vicissitudes of Sufi Movement in the Society: Past and the Present”と題する部会を組織し、本研究の最終成果を明らかにした。

成果の公刊については、研究期間中に学術誌で4本の特集を組んだ。“Sufis and Saints Facing the Government and the Public” (*Orient* 46 (2011): 1-93)、“Narrating the Narrative of Saints” (*Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 6 (2013): 1-58)、“New Emerging Networks of Sufis and Saint Venerators in Contemporary Islam” (*The Journal of Sophia Asian Studies* 31 (2013): 1-84)、“The Vicissitudes of the Sufi Movement in Society: Past and Present” (*Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 8 (2015): 1-68)がこれに当たる(*Orient* 46の特集は平成22年度のWOCMES 2010での部会発表に基づく)。その他、平成23年度には研究動向報告を含む文献目録2本を刊行したが、平成24年度以降も継続的に刊行するにいたらなかった点は大きな反省点である。加えて、英文論集をパリの出版社から刊行することをCNRSと協議中であり、また和文概説書『スーフィズムを学ぶ人のために』を世界思想社から刊行の予定で執筆を進めている。

(6) 成果評価と展望

これらの活動を通して、当初の研究の目的をかなりの程度まで達成したかと思われる。

個別事例研究の進展については紹介しきれないが、次節(主な発表論文等)に一部を示した。

国内外で研究者のネットワークを拡大深化させ、CNRS スーフィズム班との連携を進め、スーフィズムやイスラームの聖者信仰に関心を持つ他の国内外研究者が本共同研究の活動をこれまで以上に認知するようになったことも、大きな成果と言える。

理論面ではスーフィズムの三極構造論について、倫理軸の研究をさらに深めることの必要性の認識を共有した他、神秘主義、倫理、民衆信仰という当初構想の三極に対して、民衆信仰軸をどのように扱うか、またそれに代わる軸の設定を検討に伏したことが成果である。スーフィズム・聖者信仰複合論についても、これをどのようにしてスーフィズムの三極構造論と接合させるかの点で議論の積み重ねがなされた。

他方では、サラフィズムとスーフィズムの関係の整理、預言者一族崇敬の研究をより統合的に組み込むこと、タリーカ研究の方向性の策定などは、重要な研究課題として浮かび上がったが、この研究期間中には十分な展開ができず、今後の共同研究での取り組みを待つこととなった。

さらに、本研究当初に設定した四つの切り口に加え、聖遺物崇敬という切り口の重要性が新たに浮かび上がってきた。共同研究としての全体性を今後維持しつつも、研究代表者である赤堀は今後、現地調査を重視しつつ聖者・聖遺物崇敬に焦点を絞った研究を実施することが目下

構想されている

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

森本一夫「ティムール家のアリー裔血統主張に関する新証拠」『オリエント』57-2 (2015): 77-90、査読有り、ウェブ上公開予定
AKAHORI Masayuki, “Towards a Dynamic View of Sufism and Saint Veneration in Islam,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 8 (2015): 57-68、査読無し、ウェブ上公開予定
ENDO Haruka, “A Preliminary Outlook on al-Sha‘rānī’s Defence of Ibn ‘Arabī and the Intellectual,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 8 (2015): 4-25、査読無し、ウェブ上公開予定

MARUYAMA Daisuke, “Redefining Sufism in Its Social and Political Contexts: The Relationship between Sufis and Salafis in Contemporary Sudan,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 8 (2015): 40-56、査読無し、ウェブ上公開予定

TAKAHASHI Kei, “Tariqas and Benevolent Associations in Early Twentieth-Century Egypt: The Case of the Society of the ‘Azmiyya Brothers in Alexandria,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 8 (2015): 26-39、査読無し、ウェブ上公開予定

MORIMOTO Kazuo, “Stephennie Mulder, *The Shrines of the ‘Alids in Medieval Syria: Sunnis, Shi‘is and the Architecture of Coexistence*, Edinburgh: Edinburgh University Press, 2014, xiv, 297 pp.,” *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 77-3 (2014): 577-579, DOI: 10.1017/S0041977X14000615、査読無し

MORIMOTO Kazuo, “Arnold E. Franklin, *This Noble House: Jewish Descendants of King David in the Medieval Islamic East*, Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 2013, xv+297 pp.,” *The International Journal of Asian Studies* 11-2 (2014): 211-213, DOI: 10.1017/S1479591414000084、査読無し

TOGAWA Masahiko, “Banglar Lalon Fakir o Islami Sufi Darshan,” *Bhabnagar: International Journal of Bengal Studies* 2 (2014): 1-8、査読無し

AKAHORI Masayuki, “Islamic Saints and the Islam of Saints,” *The Journal of Sophia Asian Studies* 31 (2013): 3-16、査読有り、<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/35827>

KUSHIMOTO Hiroko, “Re-formation of the Saint’s Image in Contemporary Malaysia: The Impact of Maulid Events and the Role of Hadrami Sayyids,” *The Journal of Sophia*

Asian Studies 31 (2013): 51-68、査読有り、
<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/35830>
LUIZARD, Pierre-Jean, “Héros de l’islam: A Secularized Hagiography of a Muslim Saint or How Political Commitment Leads to Sainthood for an Iraqi Shia Religious Leader,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 6 (2013): 37-42、査読無し、
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/173294>
MISAWA Nobuo and OSAWA Koji, “Japanese Opinions about Islam before and during World War II: Articles Related to Islam in Chugai Nippo, Buddhist Daily Newspaper (1937-45), *Annals of Japan Association for Middle East Studies* 28-2 (2013): 107-126、査読有り、
http://ci.nii.ac.jp/els/110009594493.pdf?id=ART0010051913&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1433478185&cp=
SAITO Tsuyoshi, “Narrating Life of a Man Known as a Sufi: An Anthropological Reflection on Narratives on al-Hājj ‘Alī al-Darqāwī by His Son al-Mukhtār al-Sūsī and Others,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 6 (2013): 4-20、査読無し、
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/173296>
TAKAO Kenichiro, “Sufi Traditions in Modern Syria: Prosopography of the Ulemas of Damascus in the Thirteenth to Fifteenth Hijri Centuries and the Naqshbandi Khalidi Sufi Order,” *The Journal of Sophia Asian Studies* 31 (2013): 17-34、査読有り、
<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/35828>
TOGAWA Masahiko, “Sharing the Narratives: An Anthropologist among the Local People at the Mausoleum of Fakir Lalon Shah in Bangladesh,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 6 (2013): 21-36、査読無し、
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/173295>
WAKAMATSU Hiroki, “Veneration of the Sacred of Regeneration of the Religious: An Analysis of Saints and the Popular Beliefs of Kurdish Alevis,” *The Journal of Sophia Asian Studies* 31 (2013): 69-84、査読有り、
<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/35831>
YASUDA Shin, “Commitment for Strategy: Religious Entrepreneur Networks in Syrian Shi’ite Religious Tourism,” *The Journal of Sophia Asian Studies* 31 (2013): 35-49、査読有り、
<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/35829>
ZARCONE, Thierry, “Western Visual Representations of Dervishes from the 14th Century to Early 20th,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 6 (2013): 43-58、査読無し、
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/173293>

AKAHORI Masayuki, “John RENARD (ed.): *Tales of God’s Friends. Islamic Hagiography in Translation*. Berkeley Los Angeles and London 2009. 413S. ISBN 978-0-520-25896-9,” *Der Islam* 89-1/2 (2012): 243-247、査読無し、
<http://www.degruyter.com/view/j/islam.2012.89.issue-1-2/issue-files/islam.2012.89.issue-1-2.xml>

[学会発表] (計 13 件)

SAITO Tsuyoshi, “Blurring Maraboutism: Westermarck and a Perspective on Religiosity in Daily Lives,” RAI (Royal Anthropological Institute) Research Seminar (invited lecture), March 25, 2015, London (UK)
TONAGA Yasushi, “Rethinking Sufism through the Comparison between Sufism and Pure Land Buddhism,” Joint Seminar of IMS-KIAS/ASAFAS “Traditional/Intercultural and Digital Humanity in the Mediterranean Area,” March 6, 2015, Busan (Korea)
TONAGA Yasushi, “Good and Evil according to Sufism and Pure Land Buddhism,” UIM (Islamic University of Mayasia)-International Convention on Wisdom, “Wisdom: Harmonising the World” (invited lecture) January 10, 2015, Selangor (Malaysia)
AKAHORI Masayuki, “Narrating Tales of Saints is Making Saints,” International seminar on Islamic Area Studies “Defining Muslims from Their Groups, Networks, and History” (invited lecture), March 13, 2014, Lampung (Indonesia)
AKAHORI Masayuki, “Toward a Theory of Dynamic Composition of Sufism and Saint Veneration in Islam,” WOCMES (World Congress of Middle East Studies), August 21, 2014, Ankara (Turkey)
ENDO Haruka, “Al-Sha‘rānī’s (d. 973/1565) Defence of Ibn ‘Arabī (d. 638/1240) in Sixteenth-century Egypt,” WOCMES, August 21, 2014, Ankara (Turkey)
MARUYAMA Daisuke, “Redefining Sufism in Its Social and Political Contexts: The Relationship between Sufis and Salafis in Contemporary Sudan,” WOCMES, August 21, 2014, Ankara (Turkey)
TAKAHASHI Kei, “Tariqas and Benevolent Associations in Early Twentieth-century Egypt: The Case of the Society of the ‘Azmiyya Brothers in Alexandria,” WOCMES, August 21, 2014, Ankara (Turkey)
MORIMOTO Kazuo, “Varying Criteria for a True Sayyid: Discrepancy between Genealogists and Jurisprudents,” The 6th Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (ASPS), September 2, 2013, Sarajevo (Bosnia-Herzegovina)
MORIMOTO Kazuo, “A Thirsty Market in the East: Ibn ‘Inaba and His Sayyid Genealogy”

gies,” International Conference on Iranian Studies, September 4, 2012, Istanbul (Turkey)
TOGAWA Masahiko, “Local Society and the Fieldworker: A Case Study of Campaign for Protecting the Mausoleum of Fakir Lalon Shah in Bangladesh,” American Anthropological Association, November 18, 2012, San Francisco (USA)
TONAGA Yasushi, “Personal and Impersonal God in Islamic Mysticism,” Co-conference organized by 3HK (Humanities Korea) Project Centers, “Cultural Geography: Mediterranean, Latin America, Southeast Asia,” May 17, 2012, Busan (Korea)
TONAGA Yasushi, “The Development of Tarekat and Sufism in Islamic World,” Multaqal-Sufi al-Alamy Conference (invited lecture) July 16, 2011, Jakarta (Indonesia)

〔図書〕(計9件)

高橋圭『スーフィー教団 民衆イスラームの伝統と再生』山川出版社、2014年、106頁
MISAWA Nobuo, *Album of Tatar Exiles in Interwar Japan*, Tokyo: Asian Cultures Research Institute (ACRI), Toyo University, 2014, 46 pp.
Sarah Bowen Savant and Helena de Felipe (eds.), MORIMOTO Kazuo and other 8 contributors, *Genealogy and Knowledge in Muslim Societies: Understanding the Past*, Edinburgh University Press, 2014, 164 pp. (pp. 11-23)
Catherine Mayeur-Jaouen and Alexandre Pappas (eds.), MORIMOTO Kazuo and other 9 contributors, *Family Portraits with Saints: Hagiography, Sanctity, and Family in the Muslim World*, Klaus Schwarz Verlag and Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, 2014, 462 pp. (pp. 106-124)
高尾賢一郎『現代スーフィズム研究基礎文献目録』上智大学イスラーム研究センター、2012年、24頁
東長靖『イスラームとスーフィズム—神秘主義・聖者信仰・道徳』名古屋大学出版会、2012年、301頁
安田慎『イスラームとツーリズムをめぐる研究文献目録』上智大学イスラーム研究センター、2012年、62頁
MORIMOTO Kazuo (ed.), ARAI Kazuhiro and other 12 contributors, *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet*, London: Routledge, 2012, 276 pp.
ティエリー・ザルコンヌ『スーフィー—イスラームの神秘主義者たち』東長靖(監修)、遠藤ゆかり(訳)、創元社、2011年、144頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.i-mazar.jp/web>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

赤堀 雅幸 (AKAHORI, Masayuki)
上智大学・総合グローバル学部・教授
研究者番号：20270530

(2) 研究分担者

東長 靖 (TONAGA, Yasushi)
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授
研究者番号：70217462

(3) 連携研究者

新井 和広 (ARAI, Kazuhiro)
慶應義塾大学・商学部・准教授
研究者番号：60397007

齋藤 剛 (SAITO, Tsuyoshi)
神戸大学・大学院国際文化科学研究科・准教授
研究者番号：90508912

高橋 圭 (TAKAHASHI, Kei)
東洋大学・アジア文化研究所・客員研究員
研究者番号：60449080

外川 昌彦 (TOGAWA, Masahiko)
広島大学・大学院国際協力研究科・准教授
研究者番号：70325027

三沢 伸生 (MISAWA, Nobuo)
東洋大学・社会学部・教授
研究者番号：80328640

森本 一夫 (MORIMOTO, Kazuo)
東京大学・東洋文化研究所・准教授
研究者番号：00282707